



# 三馬小学校

所在地：金沢市久安6丁目154番地

電話：076-243-2261 F A X：076-243-2262

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/minma-e>

校長名：島津 健一

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	116	136	118	108	136	123	6	743
学級数	4	4	4	4	4	4	2	26

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他						
職員数	1	1	4	4	4	4	4	4	4	2	8	1	1	1	11	50

## 1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

### (1) 成果

本校では、言語活動の工夫を図ることにより、自ら考え動き出す子を目指す学校研究を中心に学年間で共通理解を図りながら、学力の向上に全体で取り組んできた。その結果、児童は自分の思いや考えをしっかりと持ったり、思いや考えを表現したりすることができるようになってきた。このような日々の取組を基盤としながら、基礎学力の定着を図るために着実な実践を行ってきたことにより、学習の理解や定着が図られてきた。

### (2) 課題

目的や条件に応じて表現したり、自分の思考を適切に表現したりする力や深く思考する力に課題が見られる。そこで、今後もより一層、言語活動の充実を図りながら、話す、聞く、書くなどの表現力を高める指導を工夫していく必要がある。

## 2 学力等の現状分析

### (1) 国語科

- ア 「話すこと・聞くこと」領域では、話の中心に気を付け、大事な点を聞き取る力は十分身に付いているが、より正確に聞き取ることについてはやや弱い。
- イ 「読むこと」領域では、目的に応じて中心となる文や語を捉える力は良好であるが、文章全体の要点を捉えたり、段落相互の関係を読み取ったりする力は、まだ不十分である。また、言語の意味の理解に課題が見られる。
- ウ 「書くこと」領域では、相手や目的に応じて適切に書く力や条件に応じて文章を書く力は良好であるが、題意に沿って的確に表現する力は、やや不十分である。
- エ 「言語事項」では、漢字や主語と述語の理解は良好であるが、漢字の筆順やローマ字の大文字の理解は十分ではなかった。

### (2) 社会科

- ア ほとんどの領域についての基本的な知識はほぼ身に付いている。しかし、「経度・緯度」、「石川県の伝統工芸が盛んな場所、特色」についての理解がやや不十分であった。
- イ 資料を読み取る力については、複数の資料を関連付けながら読み取ることにやや課題がある。
- ウ 資料から、社会的事象のもつ意味を考えたり、自分なりに考えたことを社会科用語を使って言語化したりすることには課題がある。

### (3) 算数科

- ア 「数と計算」領域では、基本的な計算力は概ね身に付いているが、さらに確実さが求められる。
- イ 「数量関係」「図形」の領域は、概ね良好である。
- ウ 「量と測定」領域では、概ね良好であるが、量感が十分身に付いていない。
- エ 題意を正しく捉えることや、式や言葉で自分の考えを表現する力に課題が見られる。

### (4) 理科

- ア 「生命・地球」領域では、概ね良好であるが、筋肉の働きや方位など、基本的な事項の知識の定着が不十分である。

- イ 「物質・エネルギー」領域では、回路のつなぎ方については十分身に付いているが、食塩のとけ方、電磁石、凍った水の体積などの実験結果における概念形成に曖昧さが見られる。
- ウ 自分の考えを記述する力は十分身に付いているが、問題文の読解や問いに対しての答え方が不十分である。

### 3 学力向上の取組

#### (1) 国語科

- ア 聴写やメモを取りながら、正確に聴き取る機会や、要約したり、大切なことは何かを考えて聴いたりする指導を継続する。
- イ 読むことについては、辞書を活用する機会を増やし、言語の意味理解を正しくできるようにする。また、問われた事柄に対して、正しく答えることができるような指導も取り入れる。
- ウ 言語事項の指導においては、主語・述語等の指導は、重点的に行っていくこととし、漢字に関しては、筆順指導を大切にしていく。また、ローマ字については、復習の機会を持つ。
- エ 書くことの指導においては、自分の思いや考えを書くことの機会を増やしていく。また、原稿用紙を使用し、表記の仕方の指導を徹底するとともに、条件設定に応じて書く場面を取り入れる。

#### (2) 社会科

- ア 授業や朝学習タイムにおいて、地図帳や資料を活用しながら、地理的な特徴や地域の特色を多様な言い方で表現できるようにする。
- イ 資料を正しく読み取る力、複数の資料を比較して考える力を重視し、自分の考えを明確に書く指導を重ねる。
- ウ 社会科用語が身に付くよう繰り返し指導し、用語を使って考えを書いたり話したりする。

#### (3) 算数科

- ア 授業の終末にできるだけ練習問題を取り入れ、時間内での定着を図ったり、習熟の時間を確保したりする。また、個別の理解度を見取り、適切な支援を行う。
- イ 量感を育てるために、算数的活動を取り入れた学習をし、日常生活の中でも量を意識させていく。
- ウ 計算では、積・商・和・差の見当をつけて計算し、答えと比較させるようにする。
- エ 授業の中で、式、図だけでなく、言葉を加えて表現する場を設定する。また、教師自ら、算数用語を適切に使い、児童が算数用語を用いて表現できるように指導を重ねる。

#### (4) 理科

- ア 実験・観察を大切に、理科的なものの見方・考え方を伸ばすために、子ども達に考えさせたり、わかったことを記述させたりする時間を毎時間確保する。
- イ 教師が教材研究をしっかり行い、事象についての理解を深めるとともに、理科用語を正しく使用することにより、子ども達が理科用語を正しく使って説明したり、ふり返りを書いたりできるようにする。
- ウ 生き物単元では、いつも目にすることができるように、教室で長期間の飼育を心がける。
- エ 学んだことを知識として定着させるために、授業の導入は前時の振り返りから入ったり、授業の終末はまとめを行ったりする。また、生活に結び付けて考えさせるなど、実感を伴った理解を図る。
- オ 単元が終了しても、朝学習など、復習する機会を設定する。

### 4 その他の取組

- ア 朝学習タイムや放課後のクラスタイムでの計画的な学習を継続し、基礎学力を定着させる。
- イ 「学びの土台」や学習規律の徹底を図るため、定期的に実態調査に基づいた目標を設ける。
- ウ 読書力を伸ばすため、全学年で読書ラリー、読書バンクに取り組む。
- エ 「家庭学習の手引き」を保護者に配付し、家庭学習の内容や方法の周知・徹底を図る。
- オ 書く力を高めるために、ノート指導の共通理解を図る。
- カ 言語力育成の一環として、全学年で毎週、言葉のTV視聴や百人一首の取組を行い、言語能力の向上を図る。
- キ 教科ごとに具体的な言語活動例を明確にし、共通理解を図って取り組む。